

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2021年
8月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 上原 信幸

印刷所
文明堂印刷所

ていねいな牧会と

地域の課題を

主教 オーガスチン 小林 尚明



一〇〇人、二〇一〇年は、一五〇二人でした。二〇二〇年は、一〇一人。十年間で、約五〇〇人が減少しています。ただ二〇一九年は一二四七人で、昨年一年はコロナ禍にあり、二三六名の減少になっています。

「宣教協働区と協働委員会」

一九八七年、私が聖公会神学院を卒業した頃、日本聖公会の現在受聖餐者(現、現在堅信受領者)は、約二万三千人でした。それが二〇一〇年には約一万八千人、二〇二〇年は、一万三千人になっています。神戸教区はどうかと言いますと、一九八七年当時、約二

区事務所の大東正人教区主事です。各教区がしっかりと準備して現状を分かち合っています。

「ていねいな牧会と地域の課題」

その発表の中から、沖繩教区も信徒が減っていますが、しっかりと現状維持している教会や信徒数が増えている教会があります。「何をしていますのですか」と尋ねますと、「別に、これらの教会が特別なことをしているわけではありません。ていねいな牧会です。しっかりと礼拝を守り、いい説教、祈りの集い、聖書の学びなどでしよう」というものでした。特別なことではなく、信徒一人ひとりを大切に作る教会です。

いる長崎聖三一教会でも始めました。運営費や人手も心配でしたが、いざ始めてみると公的支援や寄付もあり、人手も教会以外の有志の方々が手伝ってくださり、回っている。教会が生き生きしてきました」というのです。

この目的は、「日本聖公会を三つの宣教協働区に分け、各協働区に協働委員会を設置して区内の運営、宣教・牧会などについて協働を推進し、また教区再編について検討すること」、また「教区主教を置かず、管理主教の下で原則五年以内で他の教区との合併等の再編を目指す『伝道教区』という過渡期的な共同体の在りようの承認を求めること」でした。私たちの神戸教区は、九州教区、沖繩教区とともに西日本宣教協働区を作りました。

最初、九州と沖繩そして神戸、三つの島に分かれていて何が出来るのかと懐疑的でした。しかし、今年に入り、毎月一回、リモート会議を行っています。各教区から主教と聖職の代表一人、信徒の代表一人、三つの教区ですから九名です。神戸からは、私と宣教委員長の瀬山会治司祭、教

また、九州教区から学んだことは、九州教区も信徒が減っています。しかし、生きている教会になっていくところがある」というのです。どうすれば生き生きした教会になれるのか、発表者の柴本孝夫司祭に尋ねてみました。すると、「鹿児島復活教会で始められた『子ども食堂』を自分の

日本聖公会に「宣教協働区と協働委員会」を作りました。

現状を打開していく方策は、奇抜な企画ではなく、ていねいな牧会と地域の課題を真摯に対応するところからでしょう。各教会の宣教・牧会を見つめ直していきましょう。

(神戸教区主教)

二〇二二年沖繩週間 沖繩の旅を オンラインで開催



日本聖公会は毎年、沖繩慰霊の日である六月二十三日の週を「沖繩週間」と定め、第二次世界大戦中の沖繩戦での出来事や沖繩の現状を人々に伝えることを意識すると共に、祈りによって平和を求めることを各教会に奨励してまいりました。また毎年この時期には「沖繩の旅」と題して、参加者が沖繩に集い、戦争の痕跡や現地の現状などを肌で感じる機会が設けられていました。

今年もオンラインで「沖繩の旅」を開催することにしました。今回は六月二十二日と二十三日の二日に分けて、沖繩の「過去」と「今」という観点からプログラムを企画しました。両日共、スタッフを含め八十名以上の方々がご参加下さいました。

第一日目は沖繩県YouTube公式チャンネルから配信されている戦争証言の中から、二人の証言動画を参加者全員で視聴しました。読者の皆さんは、「なぜ証言者のお話を直接聞かないの?」とお思いかもしれません。実は企画段階で、「現地の戦争証言者からお話をお伺いする」という案が出ましたが、「証言者の高齢化」という問題から現地でお願いできる証言者がいらつしやらないという結論に達

し、YouTubeに頼ることになりました。これも一つの現実なのです。動画の証言内容は「艦砲射撃にあった」、「共通語(標準語)を話すことが出来ない、おじい二人が、日本軍軍医にスパイと決めつけら



もの耳を塞がなければならないくらいの米軍機の騒音が日常生活の中にあること、今なお沖繩各地の地面に多くの不発弾があり、それを全て撤去することなど、現地の方からしか聞けないお話を伺うことが出来ました。

また両日共、小グループでの分かち合いの時間をもちました。その際、沖繩教区の高校生から「沖繩の戦争はまだ終わっていない」という声を聞きました。また他の沖繩の方からは、若い世代、特に中高生の中に「戦争は大昔のこと」と興味・関心を全く示さない人も徐々に増えていることや、家族内で本土返還前の世代がいけないことで、県民の中でも意識の差が生じてきているということも伺いました。

外在住の方も数名参加されました。その中でも長い間、アメリカ・ニューヨークに滞在していらつしやった方に、アメリカでの沖繩戦の反応をお伺いすると、「一般人の中で沖繩戦の話が出ることはほとんどないですが、退役軍人の中には硫黄島のことをお話になる方がいらつしやいます」という答えが返ってききました。

沖繩戦や沖繩問題は広島・長崎の原爆と同じくらい、世界に発信すべき問題ではありませんが、実際には日本の外で大きく取り上げられないということも一つの現実なのです。

この記事を通して、沖繩戦・基地問題が今なお続いている事実を読者の皆様に覚えていただければ幸いです。

沖繩プロジェクト
実行委員会
司祭 浪花朋久

れ、殺された」などの衝撃的なものでした。

第二日目は「沖繩の今」について、沖繩教区の岩佐直人司祭と並里厚教区主事のお二人からお話を伺いました。子ど

今回のプログラムには、海

オーガスタのまなざし



主教 小林 尚明

「八代学院理事会に出席」

六月五日(土)神戸国際大学、附属高等学校を経営する八代学院理事会が大学であり、出席しました。昨年度の事業報告、決算などの議案が審議されました。今回のコロナ禍で、学生たちの生活が厳しい状況にあるのではないかと、心配しながらの出席でした。事業報告を興味深くお聞きしましたが、苦しい学生たちへの経済的支援が様々な形で行われていました。「自宅・下宿でのオンライン講義を受講するための環境整備費」として学生一人当たり一律三万円。一、四二八名から申請があり、申請者全員に総額四、二八四万円を支給した。また、「経済的に修学困難となった学生三十九名に昨年度の各授業料の全額または半額を減免した。合計二五、七四七、五〇〇円が減免された」。また、政府による「学生支援緊急給付金」を申請し二九七名で計四、八七〇万円

であった、などの報告があり、ていねいな学生支援が行われていることに安心しました。理事会後、難波一安・法人本部署務局長に「学生支援がていねいに行われていることに安心しました」とお話しすると、「学生一人一人に電話をかけ、状況を聞いて対応しました。その結果が、退学率を低く抑えられた結果になつていると思います」とのことでした。

「司祭八代智理事長」

八代司祭には、今年二月末から、聖ミカエル教会副牧師館に引越越してもらって、主日勤務をミカエルで行っていただいています。司祭とは高校時代から教区の中高生大会で知り合い、お互いに司祭で、一緒に来ている小学生たちと楽しく遊んでもらっていました。理事長という重責を担っても優しさはそのままで。毎朝の聖餐式で顔を合わせますが、理事会の次の日、「学生支援の充実」を伝えますと、「海外からの留学生が一日二〇〇円で生活していることを聞いて、支援を始めました」とのことでした。八代学院創立者八代斌助主教の建学の精神「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」が、学生たちに仕える形で実践されていることを喜びました。

(神戸教区主教)

西日本宣教協働区 協働委員会報告



日本聖公会は、長年にわたつて十一の教区でそれぞれ主教をいただいて教会活動を行ってきましたが、果たして今のままで良いのか?今これを見直そうとしています。

十一ある教区を東日本(北海道・東北・北関東・東京)、中

日本(横浜・中部・京都・大阪)、西日本(神戸・九州・沖縄)の三地域に分け、今後の教区のある方を検討しようとするものです。私たち神戸教区は九州教区・沖縄教区と共に「西日本宣教協働区」を構成しています。従来の「教区」という単位を超えて支え合い、ともに歩もうとするものです。

西日本宣教協働区 協働委員会

三教区が支え合い、共に歩もうとすることをより具体的な活動にするため「西日本宣教協働区・協働委員会」が設置されました。この委員会は、協働区内の運営・宣教・牧会な

どの協働活動を推進し、併せて現行の教区の再編について検討いたします。

この壮大な課題にチャレンジするため、各教区から三名・合計九名の委員が召集され一月から活動を開始しました。

三教区で支え合い、共に歩むために協働するっていったい何をすればいいのでしょうか?

リモート会議で集まった九人の委員の面々は、課せられた課題の前にそれぞれ模索を始めた。まずはお互い知ることが最初の第一歩です。

三教区はそれぞれ歩んできた歴史や教区の慣習が違います。まずは各教区の現在の現状(特に宣教の課題、財政の課題)を報告し分かち合いを始めました。

各教区の課題と対策 九州・沖縄教区の宣教活動

コロナ禍で教会へ来られな

い人々の為、ネットを通じて礼拝配信、高齢者の教会送迎、アルファコース、ゴスペルコンサート、慰霊の日礼拝、地域で子ども食堂実施オープン、教会会館を近隣社会に開放等々、教会内だけでなく地域社会に向けた活動を繰り広げている事を学びました。併せて神戸教区の各教会の活動を披露し、お互いに活動成果や悩みを聞かせていただき大変刺激を受けました。

しかしながら、これらの活動を通じて宣教の結果(信徒の増加)にはすぐには繋がらず時間がかかりました。一方では宣教活動の担い手は年々減少し、高齢化が進み、活動資金となる献金も年々減少傾向にある事も現実です。

残念ながら、これらは三教区が共通して抱える大きな課題である事を改めて学びました。

次回(七月)からは、これらの課題をより深く掘り下げると共に委員会でも何をなすべきかを協議する予定です。

(西日本宣教協働区
協働委員 大東正人)

鳩だより

〔敬称略〕

一 逝去

四月三日(土)

ヨハネ増田 宏
下関聖フランシス・ザビエル教会

五月二十四日(月)

トマス 漆原 一幸
徳島インマヌエル教会

六月二十四日(木)

ミカエル 西田 一史
徳山聖マリア教会

諸行事中止のお知らせ

新型コロナウイルスの影響により左記の行事が中止となりました。

- 広島平和礼拝二〇二一
- 第五十七回中高生大会
- 夏の青年交流会
- 召命黙想会

マイラ・エステバン姉 支援室より

よきサマリア人募金にご協力ありがとうございます。

の原稿入稿時はまだ金額集計中ですが、目標金額の約六倍以上となっております。本当にありがとうございます。

マイラさんは一時期のようにな急な発熱も少なくなり、体の浮腫み等も安定してきました。目を開けている時間も多くなり、周囲の気配を感じているようだと言っています。

ただ、意識障害の他、寝たきりによる様々なリスクや、長期に用いなくてはならない薬の副作用などと闘いながら療養されています。

ご家族もコロナウイルス感染症対策のため、通常とは全く異なるご苦労をされながら日々異国地で療養中のマイラさんの下へとお出でになる努力をされて来られました。

日本のゴールデンウィークと同様にラマダンの長期休暇による公官庁のお休みや、マニラのロックダウン等、ビザの申請が何度も中断し、一日千秋の思いで過ごされて来ました。ようやく六月末にお母さんのビザ取得のニュースが入り、七月二日現在航空券取得の調整中です。

ご家族はマイラさんの帰国

を強く希望されていますがコロナ禍ではベッドを使つての空輸は通常の三倍程度の一五〇〇万円といわれており、マイラさんの健康状態も気圧の関係等で楽観を許さないという診断も出ています。

ご家族は日本国内で三年程度のリハビリや治療を行う医療計画を検討され、現在調整中です。しかし、日本の医療制度では入院加療期間がおおむね三か月で一区切りを迎えるため、転院にも大きなハードルが待ち構えています。

今後、今年度のご家族支援に繰越金が出た場合、マイラ

さんのご帰国まで、ご家族お一人を三回程度お招きすることが出来るのではないかと試算しております。

リモート面会などを交えながら長期的な支援の方法を考えたと思います。

(支援室長・司祭 上原信幸)

教区新型コロナウイルス感染症対策室からのお知らせ

対策室では緊急事態宣言により教会の礼拝を自粛せざるを得なくなった場合などに、その教会の信徒・関係者の皆

様に対する礼拝支援として教区のホームページから左記の内容を配信しております。どうぞ、ご利用ください。

- 一. 自宅での祈り(式文)
- 二. 特祷・聖書日課
- 三. 主日の説教動画

(但し緊急事態宣言発出期間内)
(対策室長・司祭 瀬山会治)



9月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2021年9月2日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 興賀田光嗣

※中止の場合がございます。恐れ入りますが、ご出席される方は、事前に教区事務所までお問合せ下さい。よろしくお願ひ致します。
教区事務所 TEL.078-351-5469

* 9月の記念逝去教役者

1日	伝道師	緒方 政枝
3日	伝道師	上西 八枝
4日	執事	ラザロ 布施 好古
9日	伝道師	三宅 福恵
10日	司祭	ステパノ 片山 民治郎
12日	主教	ヘンリー エビン トン
13日	宣教師	レティシア エドワーズ
16日	司祭	ウイリアム マレー=ウォルトン
17日	司祭	アブラハム 米村 勇雄
20日	伝道師	吉田 照子
不明	宣教師	ドロシー グレグソン